

施設患者の栄養状態と薬剤の関連調査

(福岡県) そうごう薬局朝倉一木店¹⁾、久留米医大前店²⁾

○今給黎 誠¹⁾、緒方 詠一²⁾

【背景】

在宅高齢患者に見られる低栄養には、独居による社会的要因や精神的・心理的要因、加齢に伴うADLの低下、薬剤による副作用や多剤併用等の複数の要因が関与しているとされ、フレイル・サルコペニア・褥瘡などの治癒遅延につながっている。一方、施設高齢患者においては管理栄養士による栄養管理の個別対応や他者交流による社会的要因など、多くの要因がフォローされているにも拘らず、低栄養が疑われる事例があり、薬剤による副作用が要因として挙げられている。

【目的】

今回、施設高齢患者の低栄養の要因として、薬剤による副作用がどの程度関連しているかを調査したので報告する。

【方法】

2018年11月から2019年6月の7か月間、担当する施設高齢患者の内、同意のとれた9名に対し、MNA(簡易栄養状態評価表)を用いたスクリーニングと食事の摂取状況、服用薬剤を調査した。『栄養障害を起こす可能性のある薬剤(増田修三 静脈経腸栄養 Vol.26 No.4 2011)』を参照し、薬剤と低栄養との関連を評価した。

【結果】

MNAスクリーニングの結果、『低栄養』4名の内、摂取状況に問題がない患者は2名で、2名ともに『栄養障害を起こす可能性のある薬剤』を服用していた。摂取状況に問題がある患者2名の内、1名が『栄養障害を起こす可能性のある薬剤』を服用していた。また、『低栄養のおそれあり』は4名、全員が摂取状況に問題がなく、内、『栄養障害を起こす可能性のある薬剤』を服用している患者は3名であった。『栄養状態良好』は1名、摂取状況に問題はなく、『栄養障害を起こす可能性のある薬剤』の服用はなかった。

【考察】

食事の摂取状況に問題がない患者6名中5名が『栄養障害を起こす可能性のある薬剤』の服用していることから、『栄養障害を起こす可能性のある薬剤』の服用は、『低栄養』、『低栄養のおそれ』を示すひとつの要因と考えられる。今後、薬剤師が薬剤による副作用に着目し、介入すること、また、施設職員に薬剤による副作用の可能性のあることを伝えていくことは、高齢患者の栄養状況改善に寄与できると考える。